

中仙道六十九次「てくてく旅」 (No1)

本 部 北 沢 三 明

昨年の春から、日本橋をスタートして一年半（歩いた日数三十六日）になりました。今年の七月八、九日で、第三十二次（宿場の数）になり、歩行距離も 241Km に達しました。昔流に言えば約六〇里というところです。

中仙道は、日本橋から京都迄が 532Km と言われておりますので、もう少しで約半分になります。この中仙道は東海道と並び、江戸と京都を結ぶ主要な街道で、峠道が多いため宿場も多く設けられたそうです。

温暖な太平洋岸に沿って、早い時期に整備された東海道が「表街道」と呼ばれるのに対し中仙道は「裏街道」と呼ばれており、山岳地帯を進むため難所が多く、冬は雪に見舞われる過酷な道でしたが、川止めが無いのが利点とされ、特に女性は中山道を利用することが多かったと言われています。



私が中仙道歩きを思い立ったキッカケは、埼玉県に住んでいて一度は一七号線（旧中仙道）を歩いてみたいと思ったこと、故郷の長野県を歩くことで、すこしでもふるさとの歴史に触れることが出来ると思ったからです。

もう一つは、健康管理のためにウォーキングを習慣化したいと思い、中仙道を一日約一万歩あるく企画に参加したわけです。

一人で歩いたら、まず立ち寄らないであろう寺社仏閣や多くの名所旧跡が見学できることが大変魅力的です。

昔の人は一日に十里（40Km）も歩いたと言うことですので、朝から夕方迄、十時間位も歩いたのでしょうね。

今でも、街道には一里塚が残っていたり、茶屋の跡があつたり、村の入り口には道祖神があつたりします。それを目安にして歩いたり一休みしたりしたのでしょう。

私たちは、十五人から二十五人位で歩いていますが、一番困るのがやはりトイレです。特に碓氷峠は山道を朝から夕方まで登るので、特に女性軍にとっては大変でした。男性軍がそ知らぬ顔をして歩いている間に、・・・ということになります。



歩いている仲間は六十歳台が多く、年配の方は紅葉マークを付けている方も何人かいます。時には外人さんも参加したり、山形市から夜行バスで来て参加した人もいます。

最近では、一泊二日の日程が多くなり、四人で一部屋に宿泊しております。

回を重ねるにしたがい、峠越えをしながら苦しい時は励ましあい、助け合うことで、自然に仲間意識が出来て楽しく歩けるようになりました。

仲間には、ご夫婦が三組位、女性はだいたい仲

間同士です。他に一人で参加している男性もいます。中には、東海道や、甲州街道、日光街道、奥州街道歩きをすでに経験していたり、他の街道歩きを掛け持ちで参加している方もいます。

案内していただく、先生は時々変わりますが、歴史に詳しい方、神社仏閣の彫刻や建築方式に詳しい方、江戸時代の風俗に詳しい方であったりするので、面白さが倍増する歩き旅でもあります。

先生の話によると、各宿場には飯盛り女が居て、客の呼び込みから、客のもてなし、さらには特別サービスも？・・・したとのことでした。



(諏訪湖)

従って、飯盛り女の多い宿場には、女性はまだ泊まらなかったようです。

皆さんの家の近くの古い街道沿いにも、道祖神があると思いますが、特に群馬県、長野県の街道筋には、男女が手をつないだり、抱き合っている道祖神が多くみられます。

これからの旅がまだまだ楽しみです。話が随分脱線しましたが、これから、いよいよ木曽路にはいります。

「てくてく旅」の続きは、また皆さんに報告したいと思います。